科目ナンバリング	U-LAS05 10009 LJ23				
授業科目名<英訳>	地域地理学 Regional Geography		担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　久木元　美琴	
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(基礎)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	水1	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

本授業では、大学の地理学のなかでもラディカル地理学およびケアの地理学の視座に立ちながら、地域地理学を展開する。地域地理学（地誌学）は地域に関する総合的な科学であり、地域の多様な地理的条件とその相互関係から地域の事象や地域的な差異を明らかにするものである。これを考えるうえで、本授業では、世界や日本の諸地域における地域の成り立ちを動態地誌的に捉えるとともに、現代の世界や諸地域において社会問題とみなされる事象（移民、マイノリティやジェンダー、地域間格差等）を取り上げ、関連する客観データおよび規範や情動といった側面にも目配りしながら、それらが立ち現れる地域的背景や文脈、空間や場所の意味から理解する。受講生の理解を促すために地図や統計資料、映像資料、インタビュー資料等を用い、地域的文脈および空間スケールに着目しながら考察できるようになることを目的とする。

[到達目標]

世界の諸地域の特性、一般性と固有性、地域間のつながり、現象とその位置を理解する。現代世界の諸課題について地域概念や空間スケールを踏まえながら考察できる。

[授業計画と内容]

第１回　地域地理学に関する本授業の視点、地域概念
第２回～第13回
以下の各項目について講述する。各項目には、履修者の理解の程度を確認しながら、【　】で指示した回数を充てる。各項目・小項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と履修者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。講義の進め方については適宜、指示をして、履修者が予習をできるように十分に配慮する。具体的な地域として以下の（　）内の地域を主に取り上げるが、授業内容の必要に応じて別の地域に言及することがある。また、時事動向や受講生の理解度・関心によって順番・内容を変更することがある。
１）移民社会、産業の分布、都市の発展と格差（主にアングロアメリカ）【3～4回】
２）植民地支配の影響、資源と紛争、グローバル化と環境（主にアジア、アフリカ）【3～4回】
３）日本：地域構造とグローバル化、産業・労働・生活からみる地方都市【3～4回】
第14回　振り返りと総括、地域地理学の展望
第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点100%（ワークシート70%、小テスト30%）
ワークシートおよび小テストの実施方法についてはガイダンスで説明する。

地域地理学(2)へ続く↓↓↓

地域地理学(2)

[教科書]

使用しない
地図帳を持参することが望ましい。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：地図帳で当該地域の位置や地勢、疑問点や関心のある個所を確認しておく。
復習：授業の資料やノートを見直して分からなかった用語について調べる。ワークシートを作成する。

[その他（オフィスアワー等）]

ほぼ毎回ワークシートの提出がある。ワークシートでは資料の判読・要約・考察など、能動的な取り組みが求められる。
履修希望者が収容上限を超えた場合には履修制限を行う。とくに履修を希望する学生には事前課題による「教員推薦」を行う予定。
授業の進め方や評価、持参するものについて初回授業で詳しく説明するので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。

生成AIの使用制限: 課題や評価に関わる成果物のいかなる部分も、生成AIによって生成、作成、製作してはなりません。提出が求められるすべての課題は学生自身が作成したものでなければならず、生成 AI を使用して評価に使用される課題や成果物を作成することは厳格に禁止されています。ただし、自らの学習を補助するために、概念の探究を行うこと、説明を受けること、内容を翻訳すること、については、生成AIを使用することができます。使用する場合には、「京都大学の教育・学修におけるAIの利用について」のガイドラインを遵守し、誤情報やバイアス等のリスクが含まれることを念頭におき、根拠資料・一次情報の確認をすること。

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部